

中級日本語学習者の自律的学習に向けての学習の意識化の試み

石橋玲子 大塚淳子 鈴木紀子 八若寿美子

要 旨

日本語教育における学習者中心の指導の流れから、学習者の自律的学習への支援の重要性がのべられ始めている。しかし、自律的学習の実践を踏まえた研究はまだ少ない。本稿は、中級学習者を対象に、自律的学習に向けての学習の意識化を試みた実践に基づく研究報告である。

本稿では、学習の意識化の手段として実施した学習者の言語学習についてのビリーフ調査及び授業後に毎回書かせた学習に対する自己評価・コメントを中心に分析し、考察を試みた。その結果、学習の意識化の試みが、学習者が自己の学習を意識的に把握し、自己の責任において学習を修正・立案し、学習の動機づけを高めることに有効であることが明らかになった。

[キーワード] 自律的学習 意識化 自己評価 ビリーフス

1. はじめに

学習目的、ニーズ、レベル、動機、学習スタイルなど様々な面で多様である学習者に対応する方策の一つとして、「学習者中心」の指導が日本語教育の様々な領域で追求されている。この流れをさらにすすめたものとして「自律的学習」が注目されるようになってきた。

Dickinson (1987)は自律 (autonomy) を「学習者が自己の学習に関する決定および決定事項に責任をもっている状態」と定義している。具体的には、学習目標の選択、教材・内容の選択、学習方法の決定、学習成果の評価など学習に関するあらゆる選択・決定を自己の責任で行うことである。

学習者が学習を自己の責任で行う「自律的学習」は、①学習者が自分の学習をコントロールする時により効率的に学習することができる、②自己の学習に責任を持つ学習者は、教室を離れても学習をすすめることができる、③学習についての知識のある学習者は、学習ストラテジーを他の科目に転用することが

できるため有効であると、Ellis and Sinclair(1989)は述べている。

岡崎(1992)は、この自律的学習の追及の原則の一つに、「無自覚・潜在的なもの」の「意識的な実現」の追及をあげている。学習者は潜在的に自律的学習能力をもっているが、十分にそれを顕在化させているとはいえない。その原因の一つとして、学習の中で自律的学習能力を使う機会や育てていく場が与えられていないことが考えられる。通常、自律的学習は意識的には追及されていないのである。この意味で、教師の役割は学習者が意識的に自律的学習能力を使い、伸ばしていく場をどのように提供していくかにあるといえる。

1995年度お茶の水女子大学大学院日本語文化専攻の日本語教育実習として行った中級日本語コースでは、従来の「日本語学習」に加えて、自律的学習に向けての自己の学習の「意識化」を組み入れたコースデザインを試みた(実習参加者の日本語教授歴は平均6.5年)。日本で生活する中級日本語学習者は、レディネスや学習目的などが多様であるため個々に応じた対応をそれぞれが考える必要がある。また、授業以外にも学習の場が多く、コース終了後も学習を続ける必要性が大きい。このような状況のもとでは、学習者自身が自分の置かれた社会的、日常生活の中で自律的に学習をすすめていくことが必要とされるからである。

このコースでは、「無自覚・潜在的なもの」の「意識的な実現」、つまり、無自覚だった自己の学習目標や学習過程などを「意識化」する機会を与えることによって、学習者を自律的学習へと導くことを目標の一つとした。

本稿では、自律的学習に向けての学習の「意識化」の支援としてどのようなことをコースに組み入れたかを具体的に報告するとともに、この試みが学習者にどのように受け入れられ、学習者の学習にどのような影響を与えたかを、学習者に対して行った調査、学習者の記述や授業中の発話をもとに考察する。

2. 実習のコース概要

本コースは8日間の短期集中コースである。コース目標として「日本語で知的なコミュニケーションができること」を掲げ、コースに内容的に一貫性をもたせるため「環境問題」というテーマを設定し、言語形式より内容重視のコミュニケーションを目指すことを主眼とした。下位目標として、①Language objectives、②Socio-cultural objectives、③Learning-how-to-learn objectivesの三本の柱をたて、各々についてさらに細かく目標を立てた。自律的学

習に向けての学習の「意識化」に特に関連するのは、③Learning-how-to-learn objectivesの中のメタ認知ストラテジー（自分の学習を正しく位置づける・自分の学習を順序だてて計画する・自分の学習をきちんと評価する）である。

主教材として水谷信子著の「現代日本語初級総合講座」・「現代日本語初級総合講座発展編」・「現代日本語初級から中級へ」の中からテーマに合うもの6課を抜粋した。

1課の授業の進め方は、原則として、①内容理解と語彙・表現拡大を目的とした本文読解・文型練習のあと、②その語彙・表現を使う「活動」を行い、③会話の内容把握とディスコースを練習した後、スキットをつくるという3部構成で行った。その日学習する語彙・表現にいろいろな形でくりかえし触れられるようにした。

また、8日間の流れとして、以下のようにそれぞれの部分が積み重ねられ、最終的な活動に結びつくように構成した。

- a. 活動 インタビュー→ 意見を言う→ 比較する→ ディスカッションに使う言葉→ *ディスカッション「世界環境会議」(6日目)
- b. 各課ごとの音読練習→ *朗読(7日目)
- c. 各課の会話・ディスコース練習→ スキットづくり→*ドラマ(8日目)
- d. 各課の本文の語彙・文型練習→ *クイズ(8日目)

自律的学習に向けての学習の「意識化」の支援としては、学習過程にそって以下のようなことを試みた。

a. 自己の学習行動の意識化

- Horwitz(1988) のBALLI(The Beliefs About Language Learning Inventory) を実施する。(資料1)

ビリーフとは、具体的な学習の背後でそれを支える信念である。(橋本1993) 学習者が言語についての知識やプロセスについてどんなビリーフを抱いているか、学習者自身が意識化することは「無自覚・潜在的なもの」の「意識的な実現」と考えられる。

- 学習スタイル調査「How I think I learn best」を実施する。(資料2)
学習スタイルとは、学習者が何かを学ぼうとする時の特定の方法である。

b. 学習目標の意識化

インタビューで、「コースで何が学びたいか」を聞く。

コースでの自己の学習目標を明確にし、教師との話し合いが必要があれば修正する。

c. 学習の場の選択の意識化

コースの趣旨の説明とプレースメントテストの結果のフィードバックを行なった上で、コースに参加するか否かの決定は学習者がする。

d. 教材選択の意識化

resource corner を設置し、必要な教材が自由に選べるようにする。

e. 学習方法・学習内容の意識化

- ・オリエンテーションで、学習方法や学習ストラテジーを紹介する。
- ・授業前のクリニックの時間に、提出物についてのフィードバックを行ったり、学習について教師と話し合ったりする。

f. 自己評価・自己モニター

- ・授業後、毎回配布された復習シートに設けられたコメント欄に学習したことについて自由に記述し、その日の学習について内省する。
- ・インタビュー・ディベート・ディスカッションなどの活動の後、自己評価を試みる。
- ・コース全体を通しての学習成果を自己評価する。(資料3)

g. コース後の学習計画の立案(資料4)

本稿では、ビリーフ調査の結果と、学習者の記述が得られた自己評価・自己モニターを中心に、学習者の学習に対する意識の変化を観察し、報告する。

3. 学習者

学習者の年齢、国籍、職業、日本滞在期間、日本語学習歴、プレースメントテストの成績は表1に示すとおり多様である。

	性別	年齢	国籍	職業	日本滞	日本語学習歴	(/100) 文法/漢字/読解	(/20) 聴解	(/5) インタビュー
A	男	73	米	AET	5ヶ月	600-900hrs	82	12.4	4.5
B	女	69	台	日本語校生	1年	8ヶ月(25hrs/w)	90	15.8	3.8
C	男	67	台	日本語校生	1年	8ヶ月(25hrs/w)	55.5	13.8	2.7
D	男	55	豪	AET	1.5年	8ヶ月(20hrs/w)	80	13.4	5
E	男	61	豪	AET	なし	1.5年(6hrs/w)	49	12.6	3.2

	性別	生年月日	国籍	職業	日本語	日本語学習歴	文法/漢字/読解	聴解	インタビュー	
F	男	'64	墨	日本語校生	1年	3ヶ月	38	16.4	2.4	
G	女	'71	加	教師	8ヶ月	1.5年	61.5	10.8	3.6	
H	男	'71	米	AET	1年	170 hrs	22.5	12	2.6	
I	男	'69	米	AET	7ヶ月	1.5年(3.5hrs/w)	19	5	3.3	
J	男	'57	加	AET	1年	95hrs	41.5	10.8	3	
K	男	'65	加	AET		5ヶ月(3hrs/w)	30	13.4	2.1	
L	男	'70	ベル	飲食業	5.5年	3ヶ月(6hrs/w)	62.5	16.6	4.8	
注： AET = 英語教師							平均	52.6	12.8	3.4
は途中辞退者							標準偏差	22.6	2.9	0.9

4. 学習者の言語学習についてのビリーフス

Rubin(1987)によれば、学習についてのビリーフスは、学習ストラテジーの行動化と選択についての基礎を形成するという。このコースでは、自律的学習に向けての学習の意識化の一手段として、学習者が自分の言語学習についてどんなビリーフスを抱いているか客観的に把握するために、Horwitz(1988)のBALLI(The Beliefs About Language Learning Inventory) ESL用オリジナル版の調査項目文中の“English”を“Japanese”に変更して使用した。(資料1)

4.1 方法

調査はコース開始前のプレースメント時とコース終了時の2回、上記のBALLI調査票で実施した。コース終了時の実施は、コース前のビリーフスとの変化をみるためである。結果の分析は、コース開始時と終了時の両方実施できた学習者A, B, C, D, E, G, J, K, Lの9名について行った。学習者の属性及び日本語能力については、表1参照。BALLIの各項目に対する答え方は、strongly agreeからstrongly disagreeまでの5段階評定である。数値処理して考えやすいようにオリジナルの(1) strongly agreeを(5)とした。したがって、数値が5に近い方が、当該ビリーフスへの賛成度が高いことになる。

4.2 結果と考察

Horwitz(1988)は、BALLIで言語学習についてのビリーフスを具体的に34

項目列挙し、以下のように5つのカテゴリーに分類している。(1) 言語学習に対する適性、(2) 言語学習の難易度、(3) 言語学習の性質、(4) 言語学習の動機と期待、(5) 学習およびコミュニケーション・ストラテジー

カテゴリー別の学習者のコース前とコース後のビリーフスの平均値は表2の通りであるが、有意水準0.05でコース前後の統計的有意差は認められなかった。学習者別についてもビリーフスの平均値では、コースの前と後での有意差はなかった。(表3)

表2 カテゴリー別ビリーフスの平均値 ()はSD

カテゴリー	コース前	コース後	差
言語学習の適性	3.6(0.4)	3.5(0.5)	-0.1
言語学習の難易度	3.5(0.5)	3.6(0.4)	0.1
言語学習の性質	3.1(0.4)	3.1(0.3)	0
言語学習の動機と期待	3.4(0.5)	3.5(0.4)	0.1
学習とコミュニケーション ストラテジー	3.5(0.2)	3.3(0.2)	-0.2

表3 学習者別ビリーフスの平均値 ()はSD

学習者	コース前	コース後	差
A	3.4(0.4)	3.5(0.4)	0.1
B	3.0(0.7)	3.2(0.4)	0.2
C	3.2(0.2)	3.3(0.1)	0.1
D	3.5(0.2)	3.8(0.3)	0.3
E	3.5(0.4)	3.2(0.3)	-0.3
G	3.4(0.3)	3.2(0.3)	-0.2
J	3.7(0.4)	3.5(0.3)	-0.2
K	3.7(0.4)	3.5(0.7)	-0.2
L	3.4(0.3)	3.4(0.2)	0.0

しかし、くわしく調査項目別にみっていくと、次の2項目にコース前後のビリーフスの平均に有意差が検出された。

- ・項目7 「「日本語を話すとき、いい発音で話すことは重要だと思う。」
($t=2.40, p<0.05$)
- ・項目12 「「日本語を学習する最良の方法はその言葉が使われている日本

で生活することだと思う。」(t=3.16, p<0.05)

どちらも、コース後では、ビリーフスの賛成度が有意に下がっている。項目7についてはコースの目標が、言語形式の正確さより「環境問題」というテーマの内容に学習の主眼がおかれたため、学習者の発話の際の焦点が形態面より内容に移ったことに起因していると考えられる。項目12に関しては、コースの下位目標のひとつにあげたsocio-cultural objectiveにより、学習者が、学習ストラテジーとして、学習者同士の協力を促進し、学習者同士の協力から得ることが多かったことが、変容を起こした要因の一つであることが考えられる。これらのビリーフスの変容が要因になっていると考えられるものが、授業中の発話、授業活動、学習者の学習に対する自己モニターのコメント等でも観察されている。

本コースは短期間の集中コースであったため、コース前後の学習者のビリーフス及び、カテゴリー別のビリーフスの変化に有意差はなかった。しかし、このコースでとりあげた自律的学習に向けての内容重視のコースデザインに関する項目には、有意差のあるビリーフスの変化がおこったのは興味深い。

5. 学習の意識化の表出の具体例

実習のコースの概要で述べたように、今回の実習では自律的学習を支援するためにビリーフス調査や他の様々な方法によって学習の意識化を試みた。ここでは、学習者の意識の変化の様子を意識が表出していると見られる、学習者自身が記述したコメント、授業中の会話、自己評価、コース後の学習計画などから考察する。

学習者のコメントは授業後に毎回配布した復習シートのコメント欄に授業や自分の学習について学習者が自由に記述したもので、それに答える形で教師もコメントを書いている。授業中の会話は授業の様子を録画したビデオテープを文字化したものである。学習者・教師の記述したコメントは []、発話は「 」で示す。なお、学習者の発話や記述で英語のものは翻訳し、日本語のものはそのままにした。

上記の分析を試みた結果、本稿では以下の理由で学習者AとEを取り上げる。

①意識化の方法が異なっていること。

Aは教師とのインタラクションによって意識化が促され、Eは内省することにより自己の学習を意識化している。

②毎日参加し、その日の学習に対するコメントがほぼ毎日なされていること。

5.1 学習者Aの事例

学習者Aは、自分の書いたコメントに対して教師がコメントを書くという、教師とのインタラクションを通して、学習の意識化が促されていることがわかった。

例えば、次の例ではAの批判的なコメントに対し、教師がAの未熟な部分を指摘しており、5日目の教師の評価からはAがその部分を意識して直していることが観察できる。

(2日目) A [レベルの高い学生はこんなことはあまり必要じゃない]
教師 [Aさんの話し方はあまり正確でなかったり、速く話し過ぎてわかりにくいことがある]

(5日目) 教師「ゆっくり、落ち着いた言い方がいい」

発話のスピードだけでなく発話回数にも変化が見られ、自発的な発話の割合が増え、自分でもそれを評価している。

<教師がクラス全体に投げかけた質問に対する自発的な発話の回数>

(読解の授業より)

	教師の質問	Aの回答	Aのコメント
(1日目)	42回	1回	
(2日目)	35回	1回	A [質問した方がいいかもしれない]
(3日目)	24回	3回	A [全体的によくなってきた]
(4日目)	56回	10回	
(5日目)	32回	8回	

また、授業の様子を撮ったビデオの観察を通して、授業への参加度に変化が観察された。Aの学習スタイルの好みはコース開始前に行った学習スタイル調査(資料2)では、1対1または自分のペースでの学習を好むが小グループのグループワークは好まないという結果で、コース開始直後は授業への参加度が低く、他の学習者と協力する場面は見られなかった。しかし、しだいに他の学習者と質問し合ったり、協力したりする社会・情意ストラテジーの使用がみられるようになった。

授業中の発話では、教師のアドバイスを受けて言いたいことをなるべくたくさん話すようにしているが、それと同時に文法的に正しい日本語が使えていないことも意識している。

(4日目) 教師 [習ったことや今ある知識を授業でも発揮できるように]

(6日目) 教師 [長い文を使っていてよかった]

<6日目の活動の自己評価>・・・・・・・・・・ABC 評価、Aが最良

・言いたいことを全部話した …B

・文法の正確さ …C

<コース終了時の自己評価>(資料3)・・・・・・・・5段階評価、5が最良

・コースで学習したことを話す …4

・適切に話す …3

<コース後の学習計画>(資料4)

弱点、上達させるべき点… [正しく書いたり話す]

[おおさわいちろう(注:小沢一郎)の本に挑戦]

[読んだりテレビを見る時にわからない単語を調べる]

以上のようにAは学習をすすめるうちに自分の学習を見直し、言動を変化させ、自分の弱点を意識するようになっていく。前述のように自律的学習の有効性の一つに教室を離れても学習をすすめることができることがあげられるが、コース後の学習計画においてAは自己の学習目標や方法を自ら見いだしている。

5.2 学習者Eの事例

学習者Eは、毎日の学習に対するコメントを通し、自己の学習をモニターしている。Eのコメントからは自己の学習を客観的に評価し、情動的にも学習をコントロールしようとする姿勢がうかがえる。

(1日目) [もっと準備をすればもっと理解できるだろう……もっと勉強する必要がある]

3日目には、情意ストラテジーの必要性にも触れている。

(3日目) [本文を注意深く理解しようとし始めた]

[楽しく聞けるようになるためにはリラックスすることを学ぶ必要がある]

自己の学習状況の評価し、学習方法の提案が見られる。

(5日目) [思ったほど準備ができなかったので、少し元気がなかった]

[先生が速く話すと理解できないので、クラスワークに参加できていない]

[自分ができることよりできないことについて考えよう]

(6日目) [(世界環境会議では) 自分の発言に自信がもてなかった……
もっと紙を見ないで話そう]

話す技能に関しては、コース終了時の自己評価(資料3)(5段階評価、5が最良)で2と低い評価を与え、コース後の学習計画でも弱点・上達させるべき点だとしている。しかし、本文読解の授業のビデオを文字化した資料から見ると、発話には進歩が観察された。

(2日目まで) 単語レベルの発話のみ

(4日目) 単文レベルの発話

(5日目) (自由に発言する場面で、複文を使う)

「プラスチックバックがあったら、まだまだ使います。例えば、冷蔵庫に野菜を入れて、あとでプラスチックバック、ごみ入れて、出して、捨てる時に使います」

ビデオ観察からも、4日目からしだいに活動時に冗談を言ったり、他の学習者に質問したりするようになり、授業への関わり方が積極的になったことが観察された。

コース開始前の学習スタイル調査(資料2)では、自分のペースで一步一步着実に学習するのが好むとしていたが、コース終了時の自己評価ではコースで学習したこととして「他の学習者と協力する」を4と高く評価している。これは、他者とのインタラクションの重要性を意識した表れと思われる。

6. まとめ

8日間という短いコースの中でも、個々の学習者が自己の学習に対して考え、内省・評価し、自分の学習目標や方法、ペースなどを修正していく過程が観察できた。また、教師とのインタラクションが学習者の意識に影響を与えることも観察された。

コース終了時に、コースに対する全体的なフィードバックとしてコース修了者9人がコース評価をしたが、その中の「このコースはどんな点であなたの学習の助けになりましたか」という質問に対して、次のような回答がよせられた。

(英語での記述を翻訳)

- このコースはおもしろく刺激的で退屈しなかった。
- このコースは文・文型の練習の方法を考えるのに役にたった。そして、たくさんのモチベーションを与えてくれた。

- ・読み、ディスコース練習、新しい語彙、宿題、すべてが私をやる気にさせ、自分で勉強する方法を考えさせてくれた。
- ・時間をいかに有効に使うべきかを教えてくれた。このコースは私をやる気にさせてくれた。たとえ少ししか覚えられなくても、それが多くのものをもたらしてくれる。

このコースでは、学習者が言語そのものに加えて、下線[〃]が示すように3人が学習の「方法」について学んだとしている。また、波線[〃]が示すように4人がこのコースが学習の動機を高めたと指摘している。

以上、学習ビリーフス、学習者の記述・発言にみる学習の意識化の表われ、学習者のコース評価を見てきた。自律的学習に向けての学習の「意識化」をとりいれたコースデザインは学習者から受け入れられ、学習者が自己の学習の現状を把握し、コース後の学習への具体的な計画へと導く動機づけを与えたことは確実である。

しかしながら、8日間という短期間であったため、時間的にもそれぞれの試みが十分行われたわけではない。教師と学習者が学習について話し合う場であるクリニックが時間的制約のため十分機能しなかったこと、コース後の学習計画に対するフィードバックが行われなかったことなどが問題点としてあげられる。

また、本当の意味での自律的学習はコース終了後に始まるといえる。本コースで体験した学習の「意識化」がどのようにその後の学習に生かされているか追調査することが不可欠であろう。

(お茶の水女子大学大学院日本語文化専攻修士課程2年)

参考文献

- (1) 岡崎敏雄 (1992), 「日本語教育における自律的学習」『広島大学日本語教育学科紀要』第2号
- (2) お茶の水女子大学大学院人文科学研究科日本語文化専攻教育実習記録編集委員会 (1995) 「1995年夏期 日本語教育実習の記録」
- (3) 橋本洋二 (1993) 「言語学習についてのBELIEFSのための試みーBALLIを用いてー」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号
- (4) 渡辺春世 (1990) 「学習者のビリーフとラーニングストラテジーー学習

者からの言語学習に関する情報獲得の試み—」『日本語教育論集』7—日本語教育長期専門研修平成元年度報告—国立国語研究所日本語教育センター

- (5) Dickinson, L. (1987). *Self-instruction in Language Learning*. Cambridge University Press
- (6) Ellis, G. and Sinclair, B. (1989). *Learning to Learn English—A Course in Learner Training Teacher's Book*, Cambridge University Press
- (7) Horwitz, E. (1988). The Beliefs about Language Learning of Beginning University Foreign Language Students. *The Modern Language Journal* 72, iii
- (8) Rubin, J. (1987). Learner Strategies: Theoretical Assumptions, Research History and Typology. In Wenden, A. & Rubin, J. (Eds.) *Learner Strategies in Language Learning*. Prentice-Hall International.

[資料 1]

BALLI(Beliefs About Language Learning Inventory.) JSL student Version

1. It is easier for children than adults to learn a foreign language.
2. Some people have a special ability for learning foreign languages.
3. Some languages are easier to learn than others.
4. Japanese is: (5) a very difficult language
(4) a difficult language (3) a language of medium difficulty
(2) an easy language (1) a very easy language
5. I believe that I will learn to speak Japanese very well.
6. People from my country are good at learning foreign languages.
7. It is important to speak Japanese with an excellent pronunciation.
8. It is necessary to know about Japanese-speaking cultures in order to speak Japanese.
9. You shouldn't say anything in Japanese until you can say it correctly.
10. It is easier for someone who already speaks a foreign language to learn another one.
11. People who are good at mathematics or science are not good at learning foreign languages.
12. It is best to learn Japanese in Japan.
13. I enjoy practicing Japanese with a Japanese I meet.
14. It's o.k. to guess if you don't know a word in Japanese.
15. If someone spent one hour a day learning a language, how long would it take them to speak the language very well:
(5) less than a year (4) 1-2 years
(3) 3-5 years (2) 5-10 years
(1) You can't learn a language in 1 hour a day.
16. I have a special ability for learning foreign languages.
17. The most important part of learning a foreign language is learning vocabulary words.
18. It is important to repeat and practice a lot.
19. Women are better than men at learning foreign languages.
20. People in my country feel that it is important to speak Japanese.
21. I feel timid speaking Japanese with other people.
22. If beginning students are permitted to make errors in Japanese, it will be difficult for them to speak correctly later on.
23. The most important part of learning a foreign language is learning grammar
24. I would like to learn Japanese so that I can get to know Japanese better.
25. It is easier to speak than understand a foreign language.
26. It is important to practice with cassettes or tapes.
27. Learning a foreign language is different than learning other academic subjects.
28. The most important part of learning Japanese is learning how to translate from my native language.
29. If I learn Japanese very well, I will have better opportunities for a good job.
30. People who speak more than one language are very intelligent.
31. I want to learn to speak Japanese well.
32. I would like to have Japanese friends.
33. Everyone can learn to speak a foreign language.
34. It is easier to read and write Japanese than to speak and understand it.

[資料 2]

学習スタイル調査

<How I think I learn best>

Use the following scale in commenting on the following

1-never, 2-rarely, 3-sometimes, 4-often, 5-never frequently

- 1) I learn step-by-step.
- 2) I learn best by acting a situation out in dialogue form.
- 3) I learn best by seeing something first.
- 4) I learn best by listening to something first.
- 5) I learn best by using combination of sentence.
- 6) I learn best by using a variety of techniques depending on the situation.
- 7) I think my mood or how I feel determines how I learn best.
- 8) I learn best by one-to-one situations.
- 9) I learn best when doing small group work. I think to have somebody with me to work with.
- 10) I learn best by working alone at my rate.
- 11) I learn best as part of a large classroom group.
- 12) I generally participate actively in small-group discussions.
- 13) I generally participate actively in large-group discussions.

source: C. Broder, K. Brown, B. Forester and R. Kufman, Parsippany
 Adult and community Education Center

学習スタイル調査結果

学番	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A	2	4	1	2	1	4	2	5	1	5	2	4	2
B	4	5	4	3	2	2	5	2	5	2	3	4	3
C	4	3	4	4	4	3	4	2	2	3	2	3	3
D	4	4	4	2	4	5	5	4	5	3	4	5	5
E	4	4	2	4	2	2	4	3	3	4	3	3	3
F	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
G	3	3	4	3	2	4	5	4	5	2	1	4	3
H	5	3	4	3	4	4	5	5	2	4	1	2	1
I	4	3	5	5	5	3	3	3	4	1	3	4	3
J	4	3	3	3	4	4	3	2	5	1	3	5	5
K	3	4	5	3	5	5	3	3	4	3	2	4	3
L	3	2	4	4	5	3	3	3	4	2	3	3	3
平均	3.6	3.5	3.6	3.3	3.5	3.6	3.8	3.3	3.6	2.7	2.5	3.7	3.1
SD	0.6	0.6	1.3	0.7	1.9	1.7	1.1	1.1	1.9	1.5	0.6	0.7	2.2

[資料 3]

Self-Assessment Form

1. In this course, I have studied/practised/worked on.....
Name: _____

*Fill in the empty spaces with topics and areas of study that are relevant in your case, for example:

- a) how to evaluate my learning
- b) how to use and recognize certain formulae and patterns. eg.
- c) vocabulary on

- a) _____
- b) _____
- c) _____
- d) _____
- e) _____
- f) _____

2. How well have you mastered the above topics according to your own estimate?

- | | | | | | |
|----|--------|---------|--------|-------|------------|
| | not | to some | fairly | very | completely |
| a) | at all | extent | well | well | completely |
| b) | _____ | _____ | _____ | _____ | _____ |
| c) | _____ | _____ | _____ | _____ | _____ |
| d) | _____ | _____ | _____ | _____ | _____ |
| e) | _____ | _____ | _____ | _____ | _____ |
| f) | _____ | _____ | _____ | _____ | _____ |

3. I judge my weak points to be the followings:

[資料 4]

Study Plan

Name _____
*Fill in your own study plan, following the format below.
(Feedback will be provided.)

For the period beginning _____ to _____
1. I will study on my own for at least _____ hours a week.
2. The time of the day/week when I can best study is _____

3. I need to work on the following skills:

- Reading _____ Writing _____
- Listening _____ Speaking _____
- Grammar _____ Vocabulary _____

4. In my private study I need to _____

5. The thing(s) I need to improve most is/are _____

6. The material(s) I will use is/are _____

6. I will do at least _____ activities a week in each of the section I have ticked above.

7. My Study Timetable

eg. Subject	Activities planned

*Other comments:

(Susan Sheerin, Self-Access, Oxford University Press, 1989)